

【めむろ未来ミーティング日程2】

令和6年1月9日(火)

13:30~

- 参加者 21人
- 芽室町 町長、副町長、教育長
農林課長、環境土木課長、
魅力創造課参事、政策調整係長
- 記録 広報広聴係

■対応・検討が必要な事項

- ①上伏古コミュニティセンターが寒い(都市経営課)
- ②地域福祉館へのAED設置について(都市経営課)

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 町からの説明事項
 - 資料1 公共施設再配置構想
 - 資料2 新嵐山スカイパークの在り方
- 4 意見交換

【参加者】

齋場について。今の状況としては、どのようになっているのか。

【町長】

齋場については、この地域だけでなく町として大きな問題として認識している。一番大きな問題は財源。国の起債の種類として辺地債という起債があり、100%が対象となり、後々80%が帰ってくるというもの。本当はこれに町として乗りたいが、現在、辺地債を借りる対象に齋場が入っていない。現在、国の方に齋場を辺地債の対象に入れてもらいたい旨を要望している。上手く対象になれば、その時点からN年としてスタートするイメージを持っている。

また、仮にそういうことができなくても、大きな公共施設

設の最優先は齋場と捉えている。公共施設の基金を少しずつ積んでいるが、これが一定程度の金額になればゴーサインを出すことになる。非常に古い施設で皆様に迷惑をおかけしているが、そういった順番で考えさせていただいている。少ない金額でできる建物ではないので、検討を進めている。

【参加者】

齋場の煙が年々ひどくなっている。景観にも環境にも良くないと思うので、対応いただけないか。

【環境土木課長】

炉の耐火レンガを変えてから年数が経つと、徐々に煙が増えていくことがあり、燃やすものによっても煙が発生することがある。準備段階での煙の発生については、定期的に点検し煙が出ないように配慮していきたいと考えている。

【町長】

新設の話もあるが、今の状況が悪ければお金をかけてブロックや炉の変更や更新をしなければならないと考えている。先ほどのN+何年度ということも見据えて考えている状況。あまりに皆さまから状況が酷いという声が出てくれば、炉を替えるといった投資をしていかななくてはならない。

【参加者】

上伏古コミュニティセンターの件。北大に協力いただき建てた。こちらからも建物に関する要望はあるが、先方の意向の方が強く反映されていると感じている。実際に使いにくいと感じることもある。どこまで地域の要望を汲んでもらえるのか。

【町長】

北大の言うことが全てではない。これは町の施設であり、要望をお聞きして変えられるところは変えていくことになる。ただ、建物の根本的な構造を変えるだとか、そういうことはできないと思う。利用の仕方や設備を使いやすいよう整備していく必要はあると思う。例えばどのような事例があるのか。

【参加者】

今日は寒いので、物品を保管しているクローゼット奥のエアコンを稼働している。農事組合の物品保管庫を開けっ放しにしてエアコンを稼働している。あり得ない構造だと思う。

【町長】

あくまでここは町の施設。見栄えの関係でエアコンを隠したりしているが、使いにくいということであれば町の方から指示したり、予算を付けていくことはできる。

【参加者】

① 上伏古コミュニティセンターについて。建物が思ったより寒く、燃料費もかかっている。当初は温かく快適に使える旨の説明を受けていたが、現状そうっていない。連合会としても都市経営課に要望は伝えているが、なかなか予算が降りなくては対応できず、すぐにできるものではない。

【町長】

一番の問題は寒さということか。

【参加者】

日中は良いが、夜は寒い。上着を着込んで会議することもあった。最大1時間で4-5L燃料をたくことが分かった。

燃料が切れてしまったこともあり、その時はエアコンをフル稼働した。いずれにせよ、今後のランニングコストが相当かかると予想されるので、違う形の暖房など考えなくてはならないと思う。旧センターにあったような縦型暖房機のようなものを置いて、その時間帯だけ温めるような形にした方がよいのでは。

【町長】

今お聞きしたような利用勝手の状況では良くない。先方もデザインの考えがあるのかもしれないが、そればかり重視するわけにもいかない。使い勝手が良くないのであれば、むき出しになるかもしれないが縦型の暖房が付くようなこともあって良いと思う。

【副町長】

私からも対応を指示しておく。空間自体がこれだけ大きくなってしまったので、温めるにしても相当のエネルギーがかかる。机上の部分で、十勝の気候を計算せず設計していると思う。そこは修正、手直しが必要だと思うので、指示しておく。

【参加者】

斎場の件、広報などで町民に現状を知らせてほしい。町としての考えを伝えることで町民の理解が得られると思う。

また、新嵐山の件。町長・副町長の給与減額をもって責任を取ったという報道がなされていた。それが果たして良いことなのかという思いがある。新嵐山は町民の財産で、私も小さいころからスキーをしてきた。今回の件は、新嵐山の魅力を常に発信していなかった、意図が伝わっていなかったことが原因だと思う。様々な意見を受け、これからどう構想して変えていくのか、これも情報発信が必要だと思う。

予算がどのくらいかかり、使い勝手の良い施設にしていけるのか。小さな集まりからも意見を聞いていくことが必要だと思う。町長・副町長が全て責任を被るということではなく、町のものだという考えで進んでいくのが良いのではないかと。責任をどうこうといった考えでは、発展していかない気がする。歴史あるものなので、無くしてほしくない。

【町長】

まず斎場の件。例えば広報などでお知らせするのであれば、斎場が老朽化している事実、実態であったり今後のスケジュールや対応をお伝えしていくことになる。先ほどの起債がどうといった話まではできないかもしれないが、おっしゃる通りもう少ししっかり伝えていく必要があると感じる。これから担当課とも打ち合わせたい。

斎場については他の地域に移すというのは現実的に厳しく、そういった意味では皆さまの今現在の考え方は大事にさせていただきたいと思っている。

新嵐山の関係については、様々なご意見を頂いてい

る。給与責任を取る必要はないのではという意見と、これでは全然足りないという意見も正直ある。批判を覚悟で申し上げると、破産に関する法的な手続きはもう進めており、これに対して町長や副町長が責任を取れるものではない。私どもで負債の1億円を全部支払うということにもならない。弁護士からも減給する必要はないのでは、基本的に減給は職員の不祥事や犯罪を起こしてしまったときに行われるのが筋であると言われていた。

しかし、何もしないわけにもいかないと考え、弁護士に妥当な度合いを相談させていただいた。議会でも議論があったが、これは経営に対する直接的な責任ではなく、結果に対する責任という感覚。賛否両論あると思うが、私としてはそういう感覚で減額させていただいた。

新嵐山の魅力発信については、前回、新嵐山活用計画を作ったとき、コロナ禍の時期であった。本来であれば、こういった場で新嵐山について構想やイメージをお伝えすべきだったと思う。言い訳がましくなってしまうが、それができなかった部分もある。

これは大きな反省点と考えており、10月には未来ミーティングを3回行い、質疑に全てお答えした。また、LINEのアンケートでは135件の意見をいただき、ワークショップも12月に実施している。ホットボイスも町と議会宛に100件以上いただいており、この巡回型未来ミーティングも13会場で行っている。こうした様々な手法をもって皆さんの意見をお聞きし、あり方をまとめていきたい。ただし、最終的方向性は一つしか出せない。継続するにはこういうことで、という提案しかできない。町民の中にはもう山さえ要らないという、そういった声もある。一方、芽室だけではなく、十勝の芽室のスキー場だよなという声もある。説明会でもそういった声をいただいたこともあり、責任として、どちらかといえば再開に向けるべきだろうというのが今の状況。

ただ、これから様々な意見を聞いていく中で、山は要らない、スキー場は辞めてしまえばという意見もあるかもしれない。しかし、先ほど申し上げたように最終的な方向性は一つ。そこで報道にもありました、アウトドアメーカーなどの知見をいただき、デザインをしてみたいと考えている。

この件はメーカーの考え方を全部そのまま丸飲みしようという考えではなく。町としてどういうところが必要なのか考え、皆さんの意見もいただきながらまとめていきたい。あくまで町のデザイン。時間は正直かかると考えており、令和7年4月を目指すと言っているが、グランドオープンは難しい。そこで一部オープンという考え方があり、少なくともスキー場だとか夏の公園的な機能をどうするか、合わせて考えていきたい。

【参加者】

南富良野にモンベルショップがあったと思うが、売り上げはどうか。

【町長】

一定程度の売り上げがあると聞いている。お客さんのほとんどは札幌ナンバーで、十勝は10%くらいとのこと。道の駅全体の経営は分からないが、モンベル社とお話したときには、思ったより売れていると聞いている。

ショップが新嵐山にできるかどうか、全くまっさらの状態。何もショップを作るという明言はいただいていない。南富良野は旗艦店となっており、あの辺りのエリアを統括していると考えているようだ。私としては、ぜひショップも何とかお願いしたいということ、十勝管内の需要で十分やっていけるのではないということをお伝えしていきたい。

ただ、そのときに単にモンベルがもうかれば良いというものではなく、そこには食もあり、スキー場、キャンプ場もある。いかにその地域を稼げるようにするか、地元の方々にも入ってもらいたい。ある意味で外部から来るとすれば、慎重に調整しなければならないと思う。あとはやはり町民の皆さんの使い勝手がどうか、そこはメインに据えていかなくてはならないと思う。

【参加者】

(1) 新嵐山の件で、議会は積極的に関わってくれるのか。(2) 先日、芽室の中学生が地元の食材を使ったメニューを考案していた。中学生のアイデア

は素晴らしいものがあり、新嵐山の再生にも関わってもらえるのが良いのではと思う。

【町長】

(1) まず、議会との関係について。議会と町が対立しているということは全くない。議長をはじめ、これからは新嵐山を一緒にどうしていくのかという雰囲気になっている。ただ、議員さんも16人いらっしゃるの、私としてはそれぞれの皆さんがどのような山を考えているのか分からない。必ず「これは議会の総意ですよ？」と先に聞いている。私は議員の皆さんと意見交換する機会も与えてくださいというように話している。

また、休止をしていると施設は絶対に傷んでしまう。居抜きでどこかの業者が入ってきてそのまま運営するというのは簡単な話ではない。私どもとしては、ソフトランディングというか一定程度経営運営しながら、次のシーズンに繋げたいと考えていた。結果的にはそれはできなくなってしまったが、その辺りも計算・算定して町の負担がどのくらいになるのか、考えなくてはならない。そこには議会の議決が必要なので、当然理解していただかなくてはならない。今の流れとしては、スキー場をやっているようなところと一緒に視察に行く予定がある。やはり現場を見なくてはならない、そういった動きがある。

正直、一番大きいのは事業費。前回の活用計画で14億5000万円という総事業費だけが走ってしまった。そのうち8億円は両リフトの入れ替え・更新。3億円は宿舎を全て建て替える場合の最大の金額。この合計で11億円。残りの3億円も大きなお金だが、前倒しや先送りをして、実はお金はあまり使っていなかったというのが実態。総事業費で物を語られると、これに税金を入れるのかという話になってくる。今回考えているのは、総事業費のうち補助や起債を除いた町の負担がどのくらいになるのか示して話をしていきたい。

これで改修も何もせず業者を募集しても応募がなく、山は終わってしまうという感覚でいる。他の自治体の事例も参考にしながら動いている。ありがたいことに、具体的な企業名は言えないが、新嵐山

に資金的援助の申し出もいただいております、複数の所事業者から運営を引き継ぎたいとの話も出ている。あまりに話を聞きすぎて身動きが取れなくなっても困るので、この段階でモンベル社のお話をさせてください。

誤解されている方もいるが、議会の議決があつてからモンベル社と交渉したわけではなく、7月の段階で第3セクターを諦めると表明したときから次の担い手を探していた。モンベル社ありきで進めていたわけではなく、スキー場含めて運営の実績がある事業者を紹介いただけないか打診したところ、先方から運営に関われないか提案をいただいた。

モンベル社が後の担い手になるのか、ショップができるのか、今の段階では全くの白紙状態。ただ、スキー場だけではペイしないと考えているので、エリアとして通年で稼いでプラスになる経営をしてもらわなくてはならないと考えている。

(2) 先日、めむくりで中学生の発送を芽室仕出しさんの方で実際に商品にいただいた。私達ではなかなかああいうアイデアは出せない。食は大事にしようと思っているので、新嵐山についてもそういった機会を設けたい。

【参加者】

議会の方は本当に新しい新嵐山を考えましょうという姿勢なのか。主体的に動くような考えや活動が見えない。

【町長】

議会から議員提案というのはあるが、基本的には町が何か打ち出したものについてイエス、ノーを議決していくものだと思う。だとすると、こちら側がしっかりした原案を出していくとか、あるいは議会とも意見交換をしながら削ぐものは削ぐ、プラスするものはプラスするということで作り上げるしかないと考えている。そのときに、皆様から出た意見を吸収し、参考としながらまとめて出していくということだと思う。

【参加者】

新嵐山について、再開の方向で動いているのは理解した。しかし、少子化や娯楽の多様化、温暖化で経営が再度悪化する可能性はあると思う。そこに税金を投入し続けるのか。ある種、町民にも覚悟を持ってもらう、考えを共有してもらうことが必要では。

【町長】

説明会の中でも、町民全員にアンケートを取ったらいののではという話があった。それをやってしまうと、山は必要ないとなる可能性もあると思っている。公共施設とイコールではないが、野球をする人は野球場を使うが、野球をしない人からすると野球場は必要ない。ですから、町民の方向は一つではないが、町としては方向を決めてやっていかなくてはならない。それで決めたのが存続の方向ということ。

おっしゃる通り、この温暖化で今までも天然雪で営業できなかったシーズンもある。人工降雪機を使って燃料で降らせていた。そうするとスキー場は本当に存続できるのかという懸念はある。先ほど申し上げたように、トータルで考えなくては、スキー場単体では存続していくのは難しいと思っている。もう一つは一定程度集客力、入ってくる企業の体力みたいなものがないと5年くらいで撤退の可能性もゼロではない。その辺りも慎重に選ばなくてはならない。

町民のためという部分では、一定のお金も町として出さなくてはならないと考えており、完全に民間に任せたらあとは知らないというわけにはいかない。町民還元のような視点は必要。それが罷りならないなら山を閉じることになってしまう。町民の皆さんに情報をしっかり提供し、皆も覚悟を持ってやっていくような感じにしたいと思う。

【参加者】

②この地域は救急車が片道15分かかる。この建物にAEDの設置をお願いしたい。

【町長】

検討する。ここだけでなく、各地域の福祉館に設

置が必要か見ていきたい。

14時35分終了

